

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401608		
法人名	有限会社 八神		
事業所名	グループホーム「あまざり」		
所在地	長崎県南島原市深江町丙357番地		
自己評価作成日	令和3年7月21日	評価結果市町村受理日	令和3年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「毎日が笑顔」をモットーに、旬の食材をおいしく食べる。畑の手入れやホーム周辺の草取りを職員と一緒にしています。家族の面会時間を制限せず、残された人生に家族が関われる時間を支援したいと思います。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年8月20日		

当ホームは国道より程近く、住宅が立ち並ぶ閑静な場所に位置している。また、道を挟んで田園が広がり、穏やかな暮らしが営まれている。理念「毎日が笑顔」を掲げ、入居者や家族が日々楽しく笑顔で暮らせるように、職員は傾聴の姿勢で関り、入居者の情報共有を図っている。遠方の家族にはLINE(SNS)を用いて入居者の画像や動画を送信し、日頃の入居者の状態を伝え、家族にも好評で安心感に繋がっている。地域住民からホームへ農産物の差し入れがあり、カボチャやじゃがいもなど旬の食材を使った馴染みのある手料理を食卓に並べており、入居者に喜ばれている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため、入居者が戸外に出かける機会が減少しているが、家族の要望による外出やホーム近隣への散歩、ホーム敷地での日光浴、ドライブ等、家族や地域住民と協力しながら外出や交流支援、気分転換に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

グループホーム「あまぎり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	有限会社 八神 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日が笑顔」をモットーに利用者様、家族、職員の笑顔を多く見られるように心がけている	理念「毎日が笑顔」をリビングに掲示し、いつでも目にし確認できるようにしている。入居者や家族、職員が笑顔で楽しく共に過ごせるように、毎朝の申し送りや毎月1回の職員会議で理念を共有し、介護の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへ買い物に行ったり、近所の人が遊びに来て下さいます	現在、新型コロナウイルス感染症予防のため、入居者が地域に出かけることは必要最小限とし、地域住民がホーム内に訪れて交流する機会は設けていない。しかし、地域住民や入居者の友人が訪れた際は、玄関先で短時間の会話や交流を行っており、入居者が地域とのつながりを継続できるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の介護の相談をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況や日常の様子、家族の要望、行事、入退所報告や研修会の紹介、問題解決への話し合いをしている	運営推進会議には、家族代表、地域包括支援センター職員、市議会議員、ホーム職員が参加し、入居者の生活やサービスの実施状況、看取りについて報告している。新型コロナウイルス感染症の状況に応じて書面を活用して意見を求め、サービス向上に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 令和3年8月20日	介護保険課に毎月の書類を提出し、わからないことを相談し、アドバイスを頂いています。	日頃より、地域包括支援センター職員や市職員と電話により連絡を取り合い、助言を得ている。また、市職員や後見人による訪問があり、その際には入居者への支援内容や生活状況を積極的に伝え、サービス向上に取り組むなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロ宣言しています。	ホームでは開設当初より「身体拘束ゼロ」を宣言し、代表者を含む全職員が身体拘束についての知識や理解を深めている。職員には拘束に関する研修を定期的に行い、「玄関の施錠はしない」、「言葉による拘束も行わない」など、拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護拒否や暴力行為がある場合には職員交代や時間を置いて声掛けしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名後見制度を利用されている方がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明し同意してもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に話をし、意見をきいています。また、遠方の家族にはSNS等を利用し意見を聞いています。	入居者や家族(遠方の家族はLINEを活用)の要望や意見を日頃より職員が聴き取り、ホーム内で検討し共有している。運営推進会議でも委員に開示し、ホームの運営に反映した内容を報告するなど取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングで利用者様や家族の要望を報告、ケアについて意見交換し介護方法を統一する。	毎朝のミーティングや、毎月1回の職員会議のほか、毎日の業務の間にも管理者は職員から運営に関する意見や提案を聴き取り、入居者及び家族に対するサービス向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を記入してもらう。労務士と話し合いながら給与水準を設定しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県GH連絡協議会、島原半島GH連絡協議会、南島原GH連絡協議会、地域の病院が開催している研修会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	空所状況の共有や色々な相談を受けたりしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を作成し、本人・家族と話し合い了解の元サービスを提供する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所されて不安を感じられる場合には毎日でも、面会に来ていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、医療機関、居宅からの情報提供と家族の希望や本人の様子を見ながら作成する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、見守り、声掛けを行い、出来ない部分を支援させていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やTELにて近況報告し、衣類等の補充や、困っていることなど、家族からの相談を気軽に受けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昼食、夕食の食事介助に毎日来ておられる家族を受け入れています。	コロナ禍により入居者が地域に出かけたり、地域住民がホームへ訪れ交流する機会は減少しているが、県外との接触が無い家族にはホームで面会できるよう取り組んでいる。地域とのつながりを継続できるよう地域住民や友人訪れた際は玄関先で短時間の交流ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファールでおしゃべりをされたり、一緒にテーブルで作業することで会話を楽しまれています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族から気軽に相談される		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で、思いや、悩みを知り、その方が笑顔で暮らせるように支援する。	職員は入居者一人ひとりと対話し傾聴することで、本人の思いや暮らしに対する希望や意向の把握に努めている。また、意思表示が困難な方には家族にも入居者本人が希望することを聞き取り、入居者本位に検討し、より良い支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅から入所された方の暮らしぶりは把握できないことが多いが日々の暮らしの中と家族との会話の中で把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや夜間、日常の会話の中で把握する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞き日々の様子など検討会を開き、それに基づいて計画を作成する。	ホームでは入居者一人ひとりの思いや家族の意向を踏まえ入居者の日々の状態を勘案し、入居者本人がより良く暮らすための課題を検討している。ケア目標を設定した介護計画を作成するとともに必要に応じて見直しを行い、全職員が入居者一人ひとりに応じた介護の実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、ケアプランチェック表、看護記録を活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望、本人の特変時に素早く対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方が野菜や魚を持ってきてくれます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族へ受診前後の報告を行う。また、家族からの相談・希望などを主治医に伝え、アドバイスをもらい、家族に伝える。	入居者や家族が希望するかかりつけ医を把握し、家族より送迎や付き添いの依頼があれば職員が受診に同行し対応している。職員は主治医の説明を家族へ報告し連携して支援している。受診の際にはかかりつけ医へ入居者の日頃の状態を詳細に報告するなど、円滑な医療との連携体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ情報を伝え、適切な看護、受診が受けられるよう連携を図る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供、介護サマリーを提供する		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要な書類を作成し、家族・主治医・看護師等と連携し指針作成、家族への説明・同意をとる。	重度化や終末期における看取り体制はホームに入居した時点で入居者と家族等へ看取りに関する「意見確認書」を用いて説明し、同意を得ている。看取り期となった場合には、入居者と家族等と話し合いながら今後の方針を決定・共有し、かかりつけ医や地域関係者と共に連携しチームで支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には各自何をするのか状況に応じて行動できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	近隣住民や近くの家族の方の協力は得られるように話をしています。	消防計画を策定し、年2回の避難訓練を実施している。訓練には入居者、職員、消防署員が参加している。昼夜を問わず入居者が避難できる経路や方法を全職員に周知徹底し、火災や災害時にも安全に避難できるよう取り組んでいる。	現在、自然災害計画を作成中であり、早期の策定を期待したい。また、これまで地域住民へ避難訓練の参加を依頼しているが、参加するまでには至っていない為、職員が代役を務め避難訓練を行っている。引き続き地域住民の理解と協力が得られるよう声掛けやホームでの取り組みを紹介する等、継続した取り組みに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた声掛けをしています。また、敬意を払った声掛けや対応をしています。	入居者一人ひとりの思いや希望の把握に努め、入居者本人の羞恥心に配慮した言葉かけや対応に努めている。入居者の人格を尊重し、尊厳や誇りが保たれるよう方言を使用しながらも敬語を使い、本人を尊重した呼び方や対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく言葉を発してもらい、意思を伝えてもらうよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外に出たいとの訴えに、職員と一緒に外出しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合う洋服を着ていただくように声掛けをいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に何を食べたいかを聞き、なるべく希望に添えるようにしています。	入居者一人ひとりの食事の形態(きざみ、とろみ)や嗜好、アレルギー等を把握し、自ら食べることを続けられるよう食器の大きさや重さ、テーブルに台を置く等、細やか配慮と支援を行っている。食材は地元で採れた旬の野菜や魚を用いて調理し、入居者が豆のすじ取りを行うなど、入居者が食事を楽しめる工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500ml以上飲用して頂いています。ムセ込みがある方にはとろみをつけたり、ゼリーに対応している。アレルギーがある方には代替え食にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は磨きをして頂き、月に2度訪問歯科を受診し口腔内の状態を見てもらっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを24時間シートにて把握している。頻尿の方は主治医と連携を取り薬の処方をしてもらう。また、なるべくトイレにて排泄をして頂ける様に声掛けし誘導しています。	職員は24時間記録シートに毎日の排泄状況を記録し、排泄パターンの把握に努め、全職員で情報と対応方法を共有している。昼夜を問わず可能な限りトイレで排泄が行えるよう声掛けや介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と野菜類の摂取に気をつけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴を基本とし、気の合う方と入浴されています。	ホームでは週3回の入浴支援を基本としているが、入居者の体調や入浴の状況に応じて、いつでも入浴できるように支援している。入浴の方法や手順は入居者が希望する方法で個々に浴えるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間クーラーをつけたり、汗をかかれた方はシャワー浴をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握し確薬をしています。また、薬剤師や医師と連携をとっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	訪問コンサートに参加したり、歌謡曲をテレビで流したりしています。おやつには食べたいものを選んでもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気がいい日はドライブへ出かけたり、買い物へ行っています。	現在、コロナ禍により入居者が戸外に出かける機会が減少しているが、ホーム近隣への散歩、ホーム敷地での日光浴のほか、ドライブ等、家族や地域住民と協力しながら可能な範囲で外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物やみこしが来た時のお賽銭など本人の要望に応じて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり、希望される家族にはLINEで動画や写真を送ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、洗面所に季節の花を置いたり、娯楽室では日向ぼっこをされています。	リビングは毎朝清掃と換気が行われ、臭気や空気の上みはない。入居者同士が会話を楽しむことができるようソファを設置し、入居者は思いおもい過ごされている。共用空間には大きな書や絵を飾り、季節の花や観葉植物を配置し、水槽のグッピーを入居者が愛でるなど、入居者が気分転換を図り居心地よく暮らせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き気の合う人と座ったり出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族・本人・職員で話し合いながら自分の居場所を作ってもらいます。	居室は入居者や家族の希望を取り入れ、入居者の状態を考慮してベッドやタンスのほか入居者が大切にしてきた仏壇や位牌、好みの洋服を眺められるよう配置している。入居者が居室で居心地よく安心して過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプランに合わせ手すりをつけたり、エアマット、ポータブルトイレ、畳、マットレスを使用しています。		